

日時：令和元年10月18日（金）13：30～16：00

場所：三重県総合文化会館

研究発表：家庭教育力の強化を図ろう

（設楽町立津具中学校PTA）

子どもたちの未来の夢のお手伝い

（津市一志西小学校PTA）

パネルディスカッション：

助言者 森脇 健夫（三重大学教育学部 教授）

コーディネーター 伊藤 雅子（津市教育委員会 教育研究支援担当参事）

司会者 中川 真実子（津市PTA連合会）

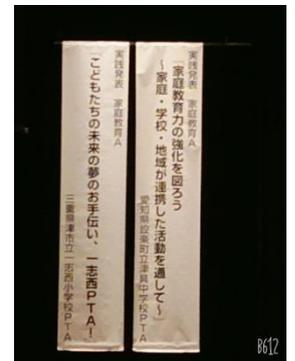
パネリスト 原田 浩伸（三重県PTA連合会 前会長）

村松 博志（設楽町立津具中学校 PTA会長）

村松 一徳（設楽町立津具中学校 教頭）

後藤 収（津市立一志西小学校 PTA会長）

山口 富生（津市立一志西小学校 校長）



三重県津市にある三重県総合文化会館で開催された第1分科会「家庭教育A」に参加し、設楽町立津具中学校PTA、津市一志西小学校PTAの発表を見学してきました。

愛知県北設楽郡設楽町の津具中学校は、生徒数21名、家庭数18戸の小規模校。地域には幼稚園、小学校、中学校が1箇所ずつしかないため、地域の繋がりが強く、学校活動やPTA活動に協力的な地域。

研究発表は、従来から行われてきているPTA活動に家庭教育力の強化という視点を当ててみたというものでしたが、地域清掃ボランティア活動や体育大会への参加など、通常のPTA活動を報告しているだけといった印象を受け、それらの活動がどのように家庭教育力の強化に繋がったのかが聞き手に伝わる内容ではありませんでした。

三重県津市の一志西小学校は、平成26年に3つの小学校が統合されて開校した児童数389名の中規模校で、吉田沙保里さんの出身校。統合により生じる統合前との比較や地区別の負担感が課題。

研究発表は、普段のPTA活動の紹介とPTA活動における保護者負担、役員の成り手不足といった組織運営の課題を述べているだけで、演題の「子どもたちの未来の夢のお手伝い」とは程遠いものでした。

その後行われたパネルディスカッションは、パネリストが当日の研究発表を行った2校のPTA会長と教職員を中心に構成されているため、目新しい発言も全くなく、また、分科会のテーマである家庭教育はどこへやらといった内容でした。

大会運営の準備には非常にご苦労も多いことと思いますが、参加者に「参加してよかった」と思ってもらえるような分科会にするためには、もう少し検討が必要なのではないかと感じました。